

今治市大学設置事業専門委員 第2回連絡会
座長による記者ブリーフィング議事概要

1. 日時・場所

11月28日（火）16：00－ 16：30 於 市役所本館2階庁議室

2. 出席者

松山大学法学部法学科教授 妹尾克敏

3. 要 旨

【今治市の財政見通し】

まず、事務局から、今治市の財政見通しについて説明があり、大学立地事業費補助金は、これまで積み立ててきた基金を充てて対応するため、今治市の将来の財政に大きな影響を与えるものではないことを確認いたしました。

【調査の進捗状況】

次に、「調査の進捗状況」について、各委員から報告がありましたので、ご紹介いたします。

まず始めに、愛媛大学の坪井委員の調査状況をご紹介します。

一般市民・県民の不安の払拭という観点から、学園や施工事業者にヒアリングを行い、主にBSL3施設について「BSL3施設設置の必要性・ゾーンニング別のBSL3施設の設置状況と必要性について」「獣医学教育病院への同施設設置の必要性について」「着任予定の先生によるBSL施設の使用予定について」「BSL3施設の仕様について」「病原等取扱動物実験施設の安全設備について」「病原等取扱動物実験（ABSL）について」「獣医学部棟内の研究・教育等設備の必要性・妥当性について」「教育病院内の設備の必要性・妥当性について」聞き取りを行い確認した。また、「図書・キャンパスライフの充実のための建物施設について」は、書面審査ならびに本連絡会で確認した。

特にP3実験室の安全性については、国立感染症研究所のガイドラインに基づき、先生自らが図面及び施工計画の聞き取りによって確認を行い、安全性の確保について確認を行った、とのご発言をいただきました。

次に、広島工業大学の村上委員の調査状況ですが、

校舎建設費等が適正であるかの観点から、入札予定価格の算出根拠について設計事業者よりヒアリングを行ない、各棟ごとに民間施工実績から単価スライドや業者見積から根拠を積み上げていることについて説明を受け、どのように設計予算書を作成したのかが良く分かった。

発注方式については、工期がタイトなことから性能発注方式を用いているが、入札不調のケースがものすごく多くなっていることから近年では良く使われる方式である。

また、建物の耐震強度や防火対策についての安全性の観点からも質疑応答を行い説明を受け、必要な対策がとられていることも確認した。

獣医学部については特殊な設備が入るため当然、工事費が高くなるが、それを除くと普通の施設単価に近いが、大学の環境としてふさわしい仕上材は耐久性があるものを使っている、とのご発言がありました。

次に、公認会計士の森委員の調査状況ですが、

経済波及効果について、経済波及効果を算定したシンクタンクよりヒアリングを行い、システムに投入するインプットの数値や、システムの客観性とその妥当性について確認した。

なお、経済波及効果を享受する意味で運営にあたっては地元企業を活用するよう意見し、学園からも是非活用したいとの意見を得た。

また、加計学園の財務状況等について、学園より現在までの借入状況やそれに伴う返済計画、新学部を設置することによる今後の収支見通しになど文科省の設置認可においても審査された状況について確認し、さらに建設や備品等の業者の選定プロセスについても確認した、とのご発言をいただきました。

次に、弁護士岩本委員の調査状況ですが、

2つの観点「実体面」と「プロセス面」から調査しており、今回の土地の無償譲渡と補助金交付決定の手続きという「プロセス面」については、適正・適法と考えている。

今後さらに、96億円の債務負担行為の設定と、上限を64億円とする市の負担額、24日に正式要請を行ったところでもある県の支援額との関係について、引き続き調査を行う、とのご発言をいただきました。

なお、最後に、私からご報告いたします。

まず、市民・県民に伝わり易い説明として、企業会計と自治体会計の違いを説明し、加えて学校法人会計の特殊性を説明しておきたいと申し上げた。現行の学校法人会計は保守的で潰すことを想定していない、黒字でありながら学生が来なくなって倒産する仕組み、基本金の仕組みで確実に積立をさせられるルールだと説明しておきたい。

また、SID創研について、事実上の子会社であるが、学校法人が各種受託業務を請け負う別会社、外部委託会社を持つことは、むしろ私立大学では常識であり、突拍子もない話ではない。

また、自治法232条の2に規定する公益上の観点、5代に亘る市長の念願だとすると、目的を逸脱していないと考えており、また、学校法人の認可は行政法上の認可手続きのルールを考えれば、一定条件をクリアすれば認可しなければならないもので、認可が取り消されることはないとお訴えしたいと、意見を述べさせていただきました。

【記者からの質疑応答】

- ・ B S L 3 施設の必要性、安全性について確認したということか。
⇒確認はしたということだが、さらに調査をするということであった。

- ・ 建設費については妥当であると確認したということか。
⇒耐震強度等含め、妥当であるという認識。
設計予算書の設定方法等について確認し、異常というのは確認できなかったということであった。

- ・ 建設工事に関して地元業者の採用が少ないという指摘に対しては。
⇒4月に開学してからは学園より是非地元企業を活用したいとの意見をいただいている。

- ・ 調査の進捗状況について。
⇒ゴールは見えているのではないか。年内には形あるものにしたい。